

すること。2つ目は、地域住民のコミュニケーションセンターの役割を果たし、犯罪抑止に関する意識を高めること。そして3つ目は、安全で安心な地域社会づくりに寄与することを掲げて、日常の様々な見守り活動を行い、またそのための研修を実施いたしております。

私たちは町内に活動拠点を持っております。この拠点は、町内の16団体で結成する陶都有田自主防犯ボランティア連合会が、警察署の統廃合により交番から連絡所になった施設を地元ボランティア団体で活用できるように、地元警察署である伊万里警察署に働きかけを行い、平成19年8月から「陶都有田結いの里ボランティア防犯センター」として使用させてもらっております。

この活動拠点は、日常の情報交換、子どもたちを含めた地域住民の立ち寄り箇所として利用しており、活動を継続していく上で、非常に役に立っています。当時、警察施設を官民で共同利用するのは、全国で初めてということでした。現在もこの施設は警察施設ですので、光熱費は警察署で負担していただいております。



活動内容

次に、私たちが日常行っている主な防犯ボランティア活動は、登下校時における子どもの見守り活動、有田陶器市などのイベント開催時における特別パトロール、年末警戒パトロール、自治体・警察等と協働した各種防犯広報活動、高齢者への声掛け・訪問活動、地域の絆の強化と青少年健全育成に関する活動、廃棄物の不法投棄防止のための監視活動などです。私たちは、毎日登下校時間帯に通学路において徒歩や立番等による子どもたちの見守り活動を実施しています。また、夏休み期間中はPTA関係者、有田町青少年問題協議会や保護司会の方々とともに、少年の非行防止等を目的とした合同パトロール活動も行っています。また、その他にも、日々の活動の中で、人通りの少ない地区や、犯罪や事故が発生しやすい危険な場所の安全点検、スーパー、コンビニ等、少年の溜まり場となりやすい場所を毎晩8時から9時の間、拍子木を叩いてパトロールを実施しています。

有田陶器市や町内のお祭り等が開催されるときは、他のボランティア団体と協働して、スリや置き引き等の被害防止を目的とした防犯パトロール活動を実施しています。今年の有田陶器市では、期間中、他の団体と協働して毎日10人程度でパトロール活動を実施しまし



た。また、4月29日には、佐賀大学生を中心とした学生防犯ボランティア団体と合同でパトロールや来訪者へのチラシ配布を行い、防犯活動を展開しました。

年末警戒パトロールについては、毎年12月に、伊万里警察署有田幹部派出所において、有田町内の防犯ボランティア団体全16団体が参加する出発式を行い、自分たちの町は自分たちで守るとの意識付けをし、期間中26日から30日までは、通常の防犯活動より人員を増やして年末の警戒活動を実施しています。



また、110番の日や地域安全運動、交通安全運動など様々な機会を通じ、有田町や伊万里警察署、有田地区防犯協会の青色パトロール活動や、有田工業高校と連携し、施錠の促進や振り込め詐欺等の被害防止のための広報活動を行っております。

次に、週2回程度、老人クラブの方々に協力いただいて、「愛の一声運動」として六区内の一人暮らしの独居高齢者宅への訪問活動を行い、声掛けや体の不自由な方々に対してはごみ出しや買い物のお手伝い、病院からの薬の受領など、高齢者の見守り活動を実施しています。また、月に1回、民生委員さんと協働による声掛け訪問活動も行っています。



地域の絆のことでありますが、公民館と協働して、毎年お年寄りと昔遊び交流会を開催し、地区内の子どもたちに昔の遊具の作り方を教えるなど、子どもと高齢者のふれあい活動を通して、地域住民の絆の強化と青少年の健全育成に努めています。これには、子どもたちが喜ぶだけではなく、地域のお年寄りからもとても喜んでいただき、豚

汁づくりや焼き芋づくりなどには腕前を發揮していただいております。

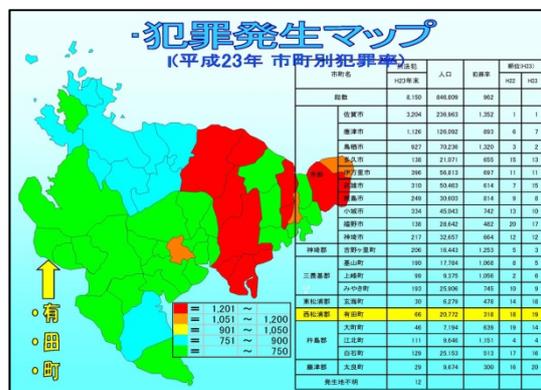
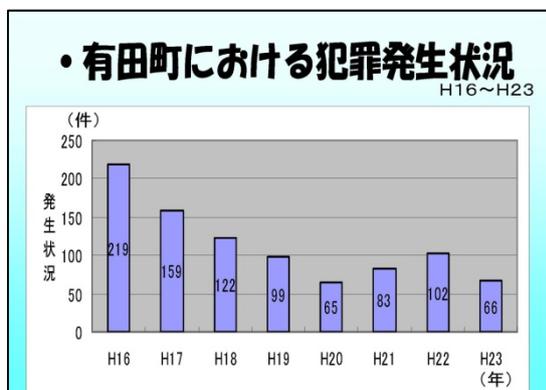
次に、有田町と協働した不法投棄ごみの監視パトロールを毎月実施しています。不法投棄を発見した際には速やかに町の担当部署に通報し、廃棄物の回収を行ってもらっています。ごみの不法投棄を黙認することは、管理されていないという印象を与え、ごみのごみを呼び、住民の不安の原因となることから、この活動にも力を入れております。

犯罪の発生状況

有田町における犯罪状況です。警察からの情報提供でグラフにまとめました。平成16年7月に団体を結成して以降、犯罪の発生件数がだんだんと減り続けておりますが、平成21年と22年には若干増加に転じました。平成23年に再び減少し、発足当時の約30%までに減少するに至っております。このグラフから、町内の防犯ボランティア団体の活動の成果が多少なりとも表れたのではないかと考えております。

この地図の右側の表は、平成23年中における佐賀県内の市町別犯罪発生状況を表したものです。

犯罪発生率の順位は、佐賀県内に20市町あるうち、有田町は少ない方から2番目の19番目でした。また、平成18年から21年までは4年連続20番目で、犯罪の発生が一番少ない町でした。今年も再び一番になるように努力します。まさに有田町は安全で安心して暮らせる住みよい町であることが理解していただけたと思います。



私たち六区見守り隊のこれまでの活動で実現できたことは、まず1つ目は、子どもたちや高齢者の見守り活動を通じ、人と人とのつながりが深まったということです。2つ目は、ボランティア活動を通じ、自治体と協働での取組ができたことです。3つ目は、先ほども説明いたしましたように、団体結成時からすれば犯罪が3分の1以下に減少し、数的に少なくなっていますが、それ以上に住民の安心感が非常に高まってきていることです。そして4つ目に、以前は暴走族や路上でたばこを吸うなど素行の悪い子どもたちを見かけましたが、その子どもたちを見かけなくなったことです。これらの成果を励みに今後も頑張っていきたいと思っています。

私たちは、私たちの町をより安全で安心な住みよい町にしたいという思いで活動してきましたが、これまでの活動が評価され、平成18年に、「佐賀県犯罪のない安全で安心な地域づくり功労団体」として、知事感謝状をいただきました。また、平成22年10月8日には、内閣総理大臣官邸において、「安心・安全なまちづくり関係功労者」として内閣総理大臣表彰を受賞いたしました。このことが私どもの大きな励みとなっています。

今後の課題

団体の高齢化に対する若返り対策として、活動の裾野をもっと広げていかなければいけないと思っております。私たちの団体は平均年齢70歳で女性が少ないので、児童の見守り活動等の各種活動を通して、なるべく壮年や主婦層にも理解をいただいて、若い方々をどんどんお誘いしたいと思います。

最後になりましたが、平成21年11月、外国の警察官が研修でお見えになり、懇談する機会がありました。その際、外国の警察官から「皆さんは活動をされて報酬もないのに不満はないのですか」という質問がありました。私は、「子どもたちからもらう元気な『ありがとう』や『おはようございます』の挨拶、それに時々お礼状をもらいます。これがわれわれの一番の報酬です」とお答えしたところ、大きな拍手をいただきました。会場の皆さん方も同じ思いだと思います。今後も、警察を始めとした行政機関、地域の皆さんに協力いただいて、老齢にむち打って頑張っていきたいと思っています。

質疑応答

●質問 活動の拠点として、警察署の統廃合で使用されなくなった交番を防犯センターとして活用されておられますが、活動拠点があると良いなという点がありますでしょうか。

○回答 活動拠点は有田町の中心、有田駅の通りの真ん前にあります。中部連絡所といいます。長崎県の佐世保市、川棚、嬉野方面の分岐点みたいなところになっていて、道案内を求められることが多いということと、先日はお年寄りが「暑いからちょっと休ませてくれ」と休憩処になっています。今では、地域住民のオアシスみたいなものになりつつあります。